

平成25年度「学校評価」総括表

○学校経営基本方針

徳島県教育基本目標に従い、一人ひとりの人権を尊重し、豊かな心と確かな学力を持ち、社会の変化に主体的に対応できる実践力のある調和のとれた人間を育成する。

○本年度重点課題

1. 学力向上の推進
2. 生徒指導の徹底 及び 保健安全教育の充実
3. 特別活動の充実
4. 人権教育の充実
5. 特別支援教育・教育相談の充実
6. 開かれた学校づくり

基本的なコンセプト

「絆」「学」「夢」を大切にしたい人づくり

- 「絆」 → 心のふれあいを大切にして、豊かな人間性をそだてる。
 「学」 → 多様な個性と能力を伸ばし、生きる力を育む。
 「夢」 → 夢を持ち、自己実現に向けて努力する人間を育てる。

○総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針	
1 学力向上の推進 (1)	①分かる授業(理解度)、興味を持たせ学ぶことが楽しいと生徒が考える授業(満足度)を実施する[研修情報課]	評価指標 ①生徒による授業評価アンケート→年1回 授業に対する生徒の満足度(生徒による授業評価アンケート)→75%以上 教員による公開授業週間→年2回 学力向上委員会→年5回	評価指標の達成度 ①生徒による授業評価アンケート→1回(11月) 授業に対する生徒の満足度(生徒による授業評価アンケート)→86%[平成24年度86%] 教員による公開授業週間→2回(6月・11月) 学力向上委員会→7回	総合評価 (評定) <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> (所見) ①～⑥家庭学習の習慣化が本校生徒の大きな課題である。進路実現に必要な学力を身に付けるために家庭学習の必要性を強く意識させていきたい。また、保護者の進路意識の高揚を図るのがもうひとつの課題である。	①全教職員による学校評価についての共通理解を進める必要がある。 ①指導と評価の一体化を意識した授業実践を行うために、各課・各教科会の充実が望まれる。 ③授業の実施率については、現在の評価制度で問題はない。 ④家庭学習時間の数値目標については、再考する必要がある。 ⑤校内テストについては、早い時期からの学習を徹底させ、得点率の向上を図る。 ⑥保護者対象の進路説明会の出席率については、数値目標の再考が必要である。	
	②読書活動の推進[研修情報課]	②図書室の年間貸し出し冊数→3,500冊以上 図書館日より年3回、全校一斉読書会→年1回	②図書室の年間貸し出し冊数→4,043冊(学級文庫を含む。2月末現在) 図書館日より年3回、全校一斉読書会→1回			①全ての教職員に「海部高校『学力・学習状況』改善プラン」を周知徹底する。 ①各教科会を定期的に行き、PDCAサイクルに基づいた見直し・改善に努める。 ③さらなる、行事の精選や学期末の日程の工夫をとおして、授業時数の確保に努める。 ④学年団との連絡を密にし、常日頃から根気強く、習慣化を働きかける。プリント学習の徹底を図る。 ⑤教科会・学年団との連携を図る。 ⑥進路への意識を高揚させるため、保護者対象の講演会を開催する。また、定期的に進路情報を発信する。
	③授業時数の確保[教務課]	③授業の実施率→法定授業時数の80%以上	③行事を精選し、授業の確保に努めた。 授業の実施率82.7%(1・2学期間)[平成24年度82.5%]			
	④学習習慣の定着[進学課]	④平均家庭学習時間2時間以上の者の割合→40%以上 生活実態調査実施→年5回、週末課題→年間20回以上	④平均家庭学習時間→1.3時間 2時間以上学習者→34% 生活実態調査→年5回、週末課題→年間20回以上実施できた。			
	⑤自ら学習する態度を育てる[進学課]	⑤補習出席率→90%以上 校内テスト各教科の平均得点率→50%以上 自主的なプリント学習(国・数・英)参加者→毎日90人以上	⑤補習出席率→90%以上達成できた。 校内テスト各教科の平均得点率→46%でほぼ達成できた。 自主的なプリント学習(国・数・英)参加者→毎日平均80～100人以上でほぼ達成できた。			
	⑥望ましい職業観や進路意識を育てる[進学課]	⑥進路講演会→年2回以上 企業・大学・短大・専門学校等へ視察→年1回以上 生徒・保護者への進路ガイダンス実施→2回以上 保護者対象進路説明会→年2回以上 保護者対象進路説明会保護者出席率→50%以上	⑥進路講演会→年4回 大学等への視察→年間1回 生徒・保護者への進路ガイダンス→年2回 保護者対象進路説明会→年2回 保護者対象進路説明会出席率→25%にとどまり、目標数値を達成できなかった。			

【備考「総合評価」における「評定の基準」】A: 十分達成できた、B: 概ね達成できた、C: 達成できなかった

※自己評価のデータ(数字)は12月に実施した学校評価・授業評価アンケート等による。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針	
1 学力向上の推進 (2)	⑦個人の能力や適性を伸ばす 〔進学課〕	⑦進学希望者校外模試全員受験→90%	⑦進学希望者校外模試全員受験→80%	(所見) ⑦ほぼ達成できた。	⑦全員受験の徹底化と受験後の見直しを徹底させる。	
	⑧きめ細かな進路指導 〔進学課〕	⑧家庭との協力体制を作る。三者面談→年1回以上 進路希望調査→年5回実施、進路検討会→年3回以上	⑧三者面談→多い生徒で10回、少ない生徒で5回 進路希望調査→年5回、進路検討会→5回	⑧達成できた。	⑧進路検討会については、会議の効果的な在り方を検討したい。	
	⑨キャリア教育の充実 〔就職課〕	⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→年間2回以上 三者面談・個人面談の実施→年3回以上 模擬面接練習→年5回以上	⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→年2回 三者面談・個別面談の実施→年間3回以上 模擬面接練習→5回以上	⑨ほぼ達成することができたが、実施にあたって時間的なタイミングの取り方が大変であった。	⑨昨年より求人数が増加したが、一次合格率が減少した。適性等を十分に考慮して指導すべきであった。	⑨求人数の増加に伴い、進路情報の適切な処理(過去の就職実績との照合)が求められる。保護者が進路決定において判断しやすく、意識が高まるような情報を提供していきたい。
	⑩進路指導体制の充実 〔就職課〕	⑩就職指導研修会実施→年6回 就職補習の出席率→90%以上	⑩就職指導研修会実施→年間7回 就職補習の出席率→93.4%	⑩3回の外部講師を招聘することができ、本校が希望する研修会の実施ができた。補習参加率も適当であった。	⑩3年次では意識ある行動ができていますが、もう少し早い段階で就職に対する取り組みを強化すべきであった。	⑩1・2年次より、学校生活に対する取り組みの重要性を理解させ、早い段階で進路意識を持たせるように取り組みたい。補習教員の適正な見直しが必要である。
	⑪基本的な生活習慣の確立 〔生徒指導課〕	⑪自主的にあいさつのできる生徒→80%以上 遅刻をする生徒の割合→1.5%以内/日 朝食を毎日摂取できる生徒→75%以上	⑪自主的にあいさつのできる生徒→57.7%【平成24年度62.7%】 遅刻をする生徒の割合→0.68%【平成24年度0.66%】 【1日当たりの遅刻者数→2.7人】 朝食を毎日摂取できる生徒→93.3%(6月実施) 基本的な生活習慣満足度【生徒・保護者】→68% 【平成24年度68%】【平成23年度63%】	⑪遅刻生徒には、個々に応じた粘り強い指導が必要である。	⑪「遅刻生徒の割合」を1.0%以内に設定する。	⑪基本的な生活習慣の確立(遅刻生徒には、粘り強く指導する)に努める。
	⑫部活動との連携 〔特活課〕	⑫考査前日と当日の活動休止 (但し、2週間以内に公式戦のある部は特別練習許可願を提出し認める)考査発表中は2時間以内の練習、早朝練習は休止	⑫ほぼ実施できた。大会が近い部活動については許可願いを提出し、職員会議で認めてもらい練習を行った。	⑫定期的な顧問会の開催ができなかったが、部活動顧問と担任間で、学習態度や生活状況については、コミュニケーションがとれた。	⑫考査時のみならず、日頃から学習時間を確保する習慣を身につけさせる必要がある。	
	⑬各種検定の受検者数・合格率を上げる 〔全学年・情ビ科〕	⑬情報ビジネス科検定(簿記、情報処理、ワープロ、商業経済、珠算・電卓、商業英検) →2級合格率50%以上、1級合格率25%以上	⑬情報ビジネス科検定合格率 簿記 2級→75%・1級→38% 情報処理 2級→65%・1級→12% ワープロ 2級→61%・1級→29% 商業経済 2級→72%・1級→27% 珠算・電卓 2級→84%・1級→45% 商業英検 2級→0%・1級→20%	⑬商業英検の合格率を向上させる取り組みが必要である。	⑬各種検定試験に向けての補習体制をさらに強化する必要がある。	

【備考「総合評価」における『評定の基準』】A: 十分達成できた、B: 概ね達成できた、C: 達成できなかった

※自己評価のデータ(数字)は12月に実施した学校評価・授業評価アンケート等による。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
		活動計画	評価指標の実施状況	（所見）			
1 学力向上の 推進 （3）	①分かる授業（理解度）、興味を持たせ学ぶことが楽しいと生徒が考える授業（満足度）を実施する〔研修図書課〕	①教科・科目において、生徒の理解度や授業への興味・関心等について意識の変化を把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう創意工夫する。授業での小テスト・定期テスト・校内テスト・模試など、テストを生かした指導方法の改善を図る。公開授業週間を充実させ、授業力向上を目指す。	①教科・科目において、授業評価アンケートを実施し、生徒の理解度や授業への興味・関心等について把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう工夫した。公開授業週間を2回計画し、授業力向上を目指した。	①授業アンケートを実施することにより、生徒の授業の取り組み状況や家庭学習状況についても把握することができた。	①授業アンケートの結果やデータの生かし方についてはさらに工夫が必要である。	①授業評価アンケート・公開授業週間の充実を図る。	
	②読書活動の推進〔研修図書課〕	②「みんなでやる。毎日やる。好きな本でいい。ただ読むだけ。」をモットーに朝の読書の充実を図る。	②学級文庫を設置するなどして、朝の読書の充実を図った。			②朝読の時間を継続する。	
	③授業時数の確保〔教務課〕	③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努める。	③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努めた。				
	④学習習慣の定着〔進学課〕	④全ての生徒の学習習慣の定着を図るために、きめ細かな目標や課題の設定などの指導助言を行う。5教科で週末課題を実施する。週末課題の工夫とその徹底を図る。	④英・数・国を中心に週末課題を実施し、課題提出の徹底を図った。	④⑤週末課題やプリント学習の中身を授業態度や生徒のニーズを踏まえて検討したい。		④～⑩保護者生徒双方の職業意識・進路意識の高揚に向けて、効果的な方策を追求していく。	
	⑤自ら学習する態度を育てる〔進学課〕	⑤普通科・情報ビジネス科の生徒に補習の積極的・継続的な参加を、根気強く呼びかける。個人面談で学習の必要性を説得していく。校内テストの難易度を考慮する。多様な生徒に対応した作問について各教科で検討し実施する。校内テストの出題範囲を明示して、計画的な学習に取り組ませる。プリントの中身については難易度に考慮し、モチベーションを高め継続する内容となるよう工夫する。	⑤定期考査や校内テストに向けての学習を促すために、生徒昇降口に看板を設置し、意識の高揚を図った。自分の分からない部分をなくそうとして積極的に質問に来る者もいるが、質問に来る者は限られている。質問に来る人数を増やそう工夫をしたい。		⑤継続できなかった生徒への呼びかけを粘り強く行う。		
	⑥望ましい職業観や進路意識を育てる〔進学課〕	⑥進路説明会への保護者の出席率を上げるために、早くから広報活動や会の大切さや実りのあることを周知徹底する。	⑥進路説明会への保護者の出席率を上げるために、早くから広報活動を行うとともに、進学・就職状況の説明なども取り入れ工夫をこらした。	⑥⑦⑧保護者の進路に対する意識の把握の必要性を感じた。			
	⑦個人の能力や適性を伸ばす〔進学課〕	⑦進路希望者には、校外模試を受験することの意義を根気強く伝えていく。	⑦校外模試の必要性を継続し生徒に働きかけた。				
	⑧きめ細かな進路指導〔進学課〕	⑧家庭との協力体制をつくる。	⑧面談などを通じて家庭との協力体制の強化に努めた。				
	⑨キャリア教育の充実〔就職課〕	⑨PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施する。進路情報（就職先・求人数等）を充実させる。	⑨PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施することができた。進路情報（就職先・求人数等）を充実させることができた。		⑨保護者相談では卒業生の動向や企業の特徴などを説明することができた。	⑨保護者の子どもに対する熱意は感じられたが、成績が悪いから就職という意識の持ち方を変える必要がある。	
	⑩進路指導体制の充実〔就職課〕	⑩就職指導について担任との連携を強化する。就職指導室の情報提供機能を充実させる。就職補習を充実させる。就職試験対策を強化する。	⑩就職指導について担任との連携を強化することができた。就職指導室の情報提供機能を充実させることができた。就職補習を充実させることができた。就職試験対策を強化することができた。	⑩担任・生徒ともに意欲的な取り組みがなされており、スムーズに就職指導をすることができた。	⑩求人数の増加が選択肢の幅をひろくしたが、就職試験の倍率も高くなり、今まで以上の指導が必要となってきている。	⑩日頃から挨拶や言葉遣いに注意させる。よい身だしなみを身につけさせるために、常時指導を徹底する。遅刻を繰り返す生徒は、特定者であることから、その生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせる。	
	⑪基本的な生活習慣の確立〔生徒指導課〕	⑪社会人として必要なあいさつの励行を徹底させる。遅刻防止については、担任による常時指導（家庭連絡を含む）や保護者との連携で防止に努める。食事の重要性について理解させる。	⑪あいさつは大切であることを理解させた。担任による常時指導（家庭連絡を含む）や保護者とも連携し遅刻防止に努める。食事の重要性について理解させるため、食育便りを発行した。	⑪基本的な生活習慣を身につけさせるには、学校と家庭や地域の連携が大切である。	⑪食事の重要性を理解させる。		
	⑫部活動との連携〔特活課〕	⑫部活動顧問と担任の連携を強化する。部活動と学習の両立を図らせる。	⑫部活動顧問と担任との連携強化に努めた。		⑫学習態度に関する指導を学期に1回部活動生徒集会を開いて指導する。	⑫顧問は、担任・生徒と十分にコミュニケーションをとり、生徒の学習態度や生活状況の把握に努める。	
	⑬各種検定の受検者数・合格率を上げる〔全学年・情ビ科〕	⑬能力に応じた各種検定を積極的に受検させ、合格できるよう支援する。きめ細かな面談指導等を実施する。	⑬各種検定を積極的に受検させ、合格できるよう支援した。				

【備考「総合評価」における『評定の基準』】A:十分達成できた、B:概ね達成できた、C:達成できなかった

※自己評価のデータ(数字)は12月に実施した学校評価・授業評価アンケート等による。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針	
2 生徒指導の徹底及び保健安全教育の充実	<p>①身だしなみ指導の徹底</p> <p>②規範意識の向上</p> <p>③安全教育の徹底</p> <p>④危機管理意識の育成</p> <p>⑤保健指導の充実</p> <p>⑥円滑な寮の運営</p>	<p>評価指標</p> <p>①全体での服装・頭髪検査実施回数→年12回以上</p> <p>②交通ルール・マナー遵守の年間指導日数→120日以上</p> <p>③自転車車体検査実施→年3回以上 交通安全講話→年1回 交通安全教室→年4回</p> <p>④防災津波避難訓練→年4回、携帯電話安全教室→年1回</p> <p>⑤保健便りの発行→年8回 薬物乱用防止教室、救命講習会→各年1回</p> <p>⑥舎監会議→年2回、寮運営協議会→年1回 寮生会議→年5回、寮生保護者会→年1回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①全体での服装・頭髪検査実施回数→12回</p> <p>②交通ルール・マナー遵守の年間指導日数→110日【平成24年度112日】</p> <p>③自転車車体検査実施→3回 交通安全講話→1回(牟岐署) 自動車学校入校指導→5回[37名]【平成24年度42名】</p> <p>④防災津波避難訓練→5回、防災講演会→1回、携帯電話安全教室→1回 防災教育の満足度→91%【平成24年度90%】</p> <p>⑤保健便りの発行→12回、食育だよりの発行→3回 薬物乱用防止教室→1回、救命講習会→1回</p> <p>⑥舎監会議→2回、寮運営協議会→1回、 寮生会議→5回、寮生保護者会→1回</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <p>①～⑥昨年度と比較すると、より一層の啓発指導が必要である。今後も指導を徹底し、満足度を向上させていかなければならない。</p> <p>②③④防災教育・交通安全教育・薬物乱用防止・携帯電話の利用など生徒を取り巻く社会情勢にも的確に対応し、安全・安心に配慮し、健全育成に努めることが大切である。</p>	<p>①～⑥各HR・各学年間において、一貫した指導体制(温度差を生じない)が築かれていない。</p> <p>①服装・頭髪指導は、これからも粘り強く指導する。説明を十分にし、保護者の理解や協力を得る。</p> <p>②③④交通安全教育・薬物乱用防止教育・携帯電話安全教室・防災教育など啓発活動に努める。</p> <p>⑤家庭連絡文書(保健便り・食育便りなど)の有効活用に努める。</p> <p>⑥自覚を持って寮生活のマナーやルールを守ることができ、寮の運営に貢献できた。</p>	<p>①～⑥生徒指導にあっては、説明を十分に行うことで保護者の理解・協力を得るように努める。</p> <p>①～⑥地域の方々の意見・要望を真摯に受け止め、その期待に応えられる学校であり続けるため、より一層の「生徒指導」の充実を推進する。</p> <p>①～⑥次年度も、人との「絆」を大切に「生徒指導の推進」に努める。</p> <p>⑥時間を守る、整理整頓、またより良い人間関係の指導等さらに充実させる。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①違反者については、担任による常時指導(家庭連絡を含む)、学年や生徒課、保護者とも連携しながら身だしなみの改善に努める。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行う。甚だしい場合は、保護者と連携して改善させる。</p> <p>②交通ルール・マナーの遵守については、生徒会や教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じてマナーの大切さを教え、規範意識の向上に努める。</p> <p>③学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止に努める。</p> <p>④防災教育啓発に力を注ぎ、常に防犯活動を通して、危機管理意識を育てる。</p> <p>⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育を推進する。</p> <p>⑥寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①違反者については、学年や生徒課、保護者とも連携しながら身だしなみの改善に努めた。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行った。甚だしい場合は、保護者と連携して改善させた。</p> <p>②教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じて交通ルール・マナーの大切さを教え、規範意識の向上に努めた。</p> <p>③学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止に努めた。</p> <p>④南部県民局・海陽町役場と連携して防災教育を推進し、実践力を身に付けさせるため校内では年4回、地域合同の避難訓練は年1回実施した。防災講演会は、中・高合同で開催した。また、犯罪に対する対応など危機管理意識を育てた。</p> <p>⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育や食育を推進した。</p> <p>⑥寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせた。</p>	<p>②生徒指導件数を減少させ、さらに規範意識を高める指導が必要である。</p> <p>⑥日直・舎監・部顧問・寮生の保護者・寮運営協議会の方々が協力して寮の運営にあたり、寮生が住みやすい環境を整えることができた。</p>		

【備考「総合評価」における『評定の基準』】A: 十分達成できた、B: 概ね達成できた、C: 達成できなかった

※自己評価のデータ(数字)は12月に実施した学校評価・授業評価アンケート等による。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
3 特別活動の充実	①ボランティア活動の充実 ②学校行事の充実 ③部活動の活性化	<p>評価指標</p> <p>①小・高連携ボランティア→年2回以上 特別支援学校との交流→年2回以上 自主的ボランティア活動(地域のボランティア、収集活動、募金活動など)→1人年1回以上、月末大掃除→年8回</p> <p>②地域ボランティアの方と生徒会役員の挨拶運動→年10回以上 海高祭・球技大会などの各学校行事に対する生徒の満足度→80%以上</p> <p>③部活動顧問会議→年3回以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①小・中・高連携ボランティア→1回 特別支援学校との交流→3回 自主的ボランティア活動(地域のボランティア、収集活動、募金活動など)→1人年1回以上44%、大掃除→14回</p> <p>②地域ボランティアの方と生徒会役員の挨拶運動→11回 海高祭・球技大会などの各学校行事に対する生徒の満足度→73%</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①②生徒会役員による校内ゴミ拾い、運動部生徒による清掃活動など継続的自主活動が見られた。</p> <p>③部活動においては昨年度以上の成績を上げることができ、各部門とも熱心に活動し、地道な努力を重ねている。よき伝統を築き上げつつある。</p>	<p>①小・中・高連携ボランティア活動・特別支援学校との交流を継続する。自主的ボランティア活動への積極的参加の促進を図る。</p> <p>②挨拶運動の継続。各学校行事の内容検討と充実を図る。</p> <p>③顧問会議を定期的に開催し、教員間のコミュニケーションを図る。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①豊かな心を育むとともに、地域社会や海部高校生の絆づくりをすすめ、ボランティア活動を積極的に行うことのできるリーダー性を養う。月末大掃除を通じて、地域の環境美化に貢献する。</p> <p>②「挨拶の励行」を積極的に取り組む。海高祭・球技大会といった各学校行事の内容の充実を図る。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組み昨年度以上の成績をあげる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①月末大掃除時では、校外外の環境美化に努めた。</p> <p>②「挨拶の励行」を積極的に取り組んだ。海高祭・球技大会といった各学校行事の内容の充実を図った。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組んだ。第4回海部高校定期公演会を計画し、文化部が協力して実施することができた。(3/22実施)</p>		
4 人権教育の充実	①人権教育の推進 ②人権教育啓発行事	<p>評価指標</p> <p>①人権学習HR活動→年5回</p> <p>②人権教育啓発行事に対する生徒の満足度→75%以上 各人権教育啓発行事→保護者参加10名以上</p> <p>③人権教育教職員研修→年4回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①同和問題を中心に、学年統一のテーマを5回設定し、生徒人権意識調査より生徒の関心のある個人人権課題の学習を取り入れた。 人権学習HR活動→5回実施</p> <p>②人権・道徳教育映画「私の中のあなた」生徒満足度93% 人権・道徳教育講演会「心のバリアフリー」講師 徳島県人権コーディネーター 久保 修氏 生徒満足度→92%</p> <p>③人権教育教職員研修→4回実施</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①②人権啓発を日々の日常で確立させるためには、推進に関する工夫が必要である。今年度は、徳島県立人権教育啓発推進センターなどの関係機関と連携した人権教育研修会を行い、社会の現状から深く学び、教育方法のあり方を探求した。</p> <p>②人権教育を実効あるものにするためには、学校・地域・家庭関係機関が密接な連携を図り、より効果的な人権教育が推進できる体制を築くことが重要となる。情報提供を行うことや、意見・要望を把握し、時代の変化に対応した人権教育を展開するよう努めなければならない。</p>	<p>①年間5回の人権学習HR活動では、様々な人権課題全てを学習できないため、各教科・科目で取り扱える人権課題については、各教科・科目で指導計画をたて行うことを今後も継続し、毎年確認する必要がある。</p> <p>②各人権教育啓発行事を行うにあたって、事前学習を行う時間を設け、より効果的な機会にする必要がある。</p> <p>③教師自身が自らの意識改革に迫るような研修内容・方法の工夫・改善をすすめる。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①HR活動に人権学習を位置付け、生徒の人権意識(「安心・自信・自由」)の高揚を図り、人権問題解決の実践力を育成する。</p> <p>②人権・道徳教育映画会や人権教育講演会といった各人権教育啓発行事の内容を充実させる。人権教育啓発行事を保護者に案内し、参加をもとめる。</p> <p>③徳島県人権教育基本方針の精神をふまえ、各種研究大会の研修成果等の共有を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①文部科学省から出されている「人権教育の指導方法等の在り方について(第3次とりまとめ)実践編」をもとに、体験的参加型授業を展開し、一人ひとりの生徒が人権共存の考え方を理解できるように工夫した。</p> <p>②人権・道徳教育映画「私の中のあなた」保護者参加申し込み2名(参加3名)。人権・道徳教育講演会「心のバリアフリー」保護者参加申し込み3名(参加3名)</p> <p>③徳島県高等学校人権教育研究大会2名参加、四国地区人権教育研究大会1名参加、全国人権・同和教育研究大会14名、海陽町分館巡回人権学習会13名参加</p>		

【備考「総合評価」における「評定の基準」】A: 十分達成できた、B: 概ね達成できた、C: 達成できなかった

※自己評価のデータ(数字)は12月に実施した学校評価・授業評価アンケート等による。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針
5 教育相談の充実	①特別支援教育の充実 ②教育相談の充実	<p>評価指標</p> <p>①校内研修会→年1回 特別支援・不登校対策委員会実施→年6回</p> <p>②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回 教育相談学年部会→年5回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①校内研修会→年1回 特別支援・不登校対策委員会実施→年6回</p> <p>②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回 教育相談学年部会→年5回</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①②校内研修会や学年部会、特別支援・不登校対策委員会を通して、「気になる生徒」についての教職員の理解が深まった。</p>	<p>①②「気になる生徒」については、教育相談学年部会から特別支援・不登校対策委員会へ上げてもらい、教員間の共通理解を図るとして、支援体制は整っている。更に生徒指導との関連性についても検討の余地がある。</p>	<p>①②外部機関との連携を図りながら、更に支援体制を整える。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①特別支援教育についての理解を深める。必要に応じて基礎学力補習を実施し、特別支援を要する生徒の支援体制をつくる。</p> <p>②「悩みアンケート」を実施したり、相談週間を設けたりすることによって、教育相談活動を充実させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①特別支援・不登校対策委員会にかかる生徒については、概ね職員全員の共通理解を図ることができた。</p> <p>②悩みアンケートや相談週間で生徒の実態把握に努めた。</p>			
6 開かれた学校づくり	①地域に根ざした運営	<p>評価指標</p> <p>①PTA総会の出席率→20%以上 海高祭への参加→500人以上 ホームページアクセス→年16,000回以上 保護者等による学校評価アンケートの実施→年1回 海高だよりの発行→年3回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①PTA総会の出席率→22% 海高祭への参加→約500名 ホームページアクセス→年39,000回(4月1日～3月1日) 保護者等による学校評価アンケートの実施→年1回 海高だよりを3回発行した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①PTA総会の出席率は、22%で目標数値を上回った。</p>	<p>①PTA総会の内容や案内方法について見直すことも必要である。ホームページアクセス数は昨年より著しく増えた。</p>	<p>①保護者への情報公開の充実を図る。</p> <p>①今年度に引き続き、各種学校行事の案内や配布物等をホームページに掲載する。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①保護者・地域との連携協力、情報公開を充実させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①情報公開については昨年以上に充実させることができた。PTA研修旅行の参加者、PTAバザーの収益金ともに昨年と同じ成果をあげた。</p>			